

平成30年度保健予防事業（案）について

（1）特定健康診査事業

①特定健診機会の充実・・・40歳から74歳までの被保険者を対象に、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した特定健康診査を実施

	事業名	事業内容	課題	対象者	平成29年度	平成30年度（案）
1	個別健診（市内医療機関）	受診期間5月下旬～11月末	受診率の向上	個別健診受診希望者	32医療機関で実施	31医療機関で実施
2	集団健診（保健センター）	7月・10月・2月の連続3日間、計9日で実施	胃がん検診同時受診可能日に申し込みが集中	集団健診受診希望者	胃がん検診（50名分×6日（土、日曜日））を同時受診できるように追加	胃がんと子宮がん検診を全期間で同時受診可能（50名分×9日（土、日、月曜日））とした。

②特定健診の受診勧奨・・・特定健康診査の受診率向上のための取組

	事業名	事業内容	課題	対象者	平成29年度	平成30年度（案）
1	特定健診受診勧奨	7月・9月未受診者勧奨	受診率の向上（特に40、50歳代）	○40、50歳代の未受診者 ○2年連続の未受診者	○40歳の初めて健診に該当した者への勧奨通知 ○40、50歳代の勧奨通知 ○広報、HP、くるりんばす広告、にしんTVを活用した情報発信	40、50歳代の勧奨通知（ハガキ）内容（文言）の工夫 勧奨通知に加え、広報、HPを活用し継続的に情報発信を行う。

(2) 保健指導事業

①保健指導機会の充実・・・特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクを階層化し、生活習慣の改善を図るための特定保健指導を実施

	事業名	事業内容	課題	対象者	平成29年度	平成30年度(案)
1	特定保健指導	<p>■個別健診では、健診の結果通知に特定保健指導の該当の有無を記載し、健診実施機関から特定保健指導を実施</p> <p>■集団健診では、集団結果説明会の開催時に、特定保健指導(初回面接)を実施(受診後1月後)</p>	利用率の向上	特定保健指導該当者	<p>■個別健診では、健診結果の早期通知を導入したことで、医療機関から保健指導の利用勧奨を出来るようにした。</p> <p>■集団健診では、健診業務受託者から電話で利用勧奨している。</p>	継続実施

②特定保健指導の利用勧奨等・・・特定保健指導の利用率向上のための取組

	事業名	事業内容	課題	対象者	平成29年度	平成30年度(案)
1	特定保健指導利用勧奨	個別訪問による利用勧奨	効果的な勧奨方法	特定保健指導未受診者(集団健診受診者)のうち ■HbA1c5.6以上	10月、12月に健康課を同行し戸別訪問した。	継続実施
2	健康サポート	生活習慣病発症リスク等の情報提供	特定保健指導利用率の向上	特定保健指導該当者のうち ■糖尿病の発症リスクが健康者比の1.5倍以上 ■心血管病のリスクが1.5倍以上+血管年齢が実年齢プラス5歳以上	「健サポナビ」を活用し、生活習慣病発症リスク等を数値化して情報提供することで、特定保健指導の利用勧奨を行った。	継続実施
3	個別運動指導	生活習慣の改善が必要な方への運動習慣の契機づくり	40~50歳代の利用率の向上	特定保健指導の初回面接を利用された者	個別運動指導(全4回)をスポーツセンターで実施した。	回数を5回に拡大して継続実施

(3) 生活習慣病重症化予防事業

生活習慣病の重症化を予防する

	事業名	事業内容	課題	対象者	平成29年度	平成30年度(案)
1	糖尿病重症化予防検討会	糖尿病重症化予防事業の検討	医療機関との連携体制の構築		かかりつけ医と連携した保健事業の検討	歯科医師、薬局(薬剤師)を含めた連携体制の構築
2	生活習慣病重症化予防	要治療者の医療機関への受診勧奨	要治療者の未治療状況の解消	HbA1cの値が7.0以上で、レセプトデータで6月以上治療していないもの	個別訪問による医療機関への受診勧奨を実施	継続実施
3		主治医と連携した保健指導の実施	モデル実施により取組内容を検討	HbA1c6.5%以上であり、以下のア又はイに該当し、かかりつけ医が保健指導の必要があると判断した人 ア 尿蛋白(+)以上の人 イ eGFR30~89ml/分/1.73m ² (CKD重症度分類のG2又はG3)に該当し、アルブミン尿値※が30以上の人	—	モデル実施

※健康マイレージ事業(特定健診・特定保健指導等への参加によりポイントを獲得するもの)の実施により、市民の健康増進事業へ参加を促す(ポイントの獲得により、記念品や店舗での割引の特典が得られる。)